

指導資料



鹿児島県総合教育センター

美術 第33号

- 中学校，盲・聾・養護学校対象 -

平成17年 5月発行

鑑賞指導の考え方と指導の工夫

鑑賞指導については，平成14年度から実施されている現行学習指導要領改訂の趣旨において「我が国及び諸外国の美術文化や表現の特質などについての関心や理解，作品の見方を深める鑑賞指導が一層充実して行われるようにする。その際，我が国の美術を重視する。また，鑑賞に充てる授業時数を十分確保するようにする。」と述べられており，鑑賞の授業のより一層の充実が求められている。しかし，鑑賞領域は表現領域に比べ指導法や題材開発が十分になされず，鑑賞指導が定着していないという反省がある。

このような反省を踏まえ，本稿では学習指導要領における鑑賞指導の考え方を整理し，どのように指導を工夫すればよいかということについて述べる。

1 鑑賞指導の意義

鑑賞とは，美術作品などのよさや美しさに触れて感動することによって心をより豊かなものにし，更に作者の心情や意図，表現の工夫などを深く理解することによって多くのものを感受し，学び取ろうとする行為である。

そこで，鑑賞の授業においては，自然や

美術作品，文化遺産などに親しみ，鑑賞の基礎的な能力や態度を育てることをねらいとし，次の3点を確実に育てていくことが重要である。

芸術のよさや美しさ，創造的な知恵などを豊かに感受できる感性

美やよりよい精神を求めて生きる人間の生き方や創造力への共感

地域や民族，国などの文化の理解及び芸術文化の継承と創造

2 指導計画の作成と鑑賞の内容

(1) 指導計画の作成

指導計画の作成に当たって特に留意すべき点として，表現と鑑賞の各目標と内容の指導事項を明確に把握し，相互の関連を十分に図り，表現と鑑賞の能力が高まるようにすることが大切である。そのために，鑑賞に充てる時数は適切かつ十分な時数を充てる必要がある。

また，題材については，日本や諸外国の児童生徒の作品，日本やアジアなどの美術文化を取り上げ，地域の美術館，博物館などを積極的に活用する。

さらに，教材となる作品については，

生徒の興味・関心，発達段階に合ったもので，親しみやすさや物語性，表現の多様性などの視点をもって選定する。

その他，生徒が随時鑑賞に親しむことができるよう，鑑賞作品を展示したり鑑賞資料を活用したりできる環境づくりに努めることなどがある。

(2) 各学年の鑑賞の内容

第1学年
<ul style="list-style-type: none"> 多様な表現のよさや美しさへの味わいと鑑賞への親しみ 生活におけるデザインや工芸の働きへの理解
第2・3学年
<ul style="list-style-type: none"> よさや美しさへの幅広い味わい 日本の美術や文化などへの理解と愛情の深まり 文化遺産の尊重と国際理解の深まり 自己の美意識や美的選択能力の高まり 自然や生活と美術との深いかかわりへの理解

3 各学年における鑑賞指導の在り方

(1) 第1学年の鑑賞指導

第1学年では，自然や美術作品などに関心をもたせるとともにそれらと素直に向き合い，感性や想像力を働かせて作品のよさや美しさを楽しみ味わいながら，美術特有の表現のすばらしさを感じ取るための見方や味わい方といった作品鑑賞の基本的な在り方や方法を理解させることが大切である。

そのため，代表的な美術作品や児童生徒の作品，また，地域の文化財等を取り

上げ，作品の見方や味わい方など，基礎的・基本的な鑑賞の能力や態度の育成を図ることが必要である。

指導に当たっては，次のことに留意することが大切である。（各留意点の番号は，指導事例の展開の番号と関連する。）

鑑賞作品は実物が理想であるが，実物に近い複製や印刷物，映像などを活用する。

（作品提示の工夫）

クイズやゲームの要素を取り入れ，楽しく主体的に活動できるようにする。

（活動の工夫）

主題とのかかわりで表現の工夫や表現技法の選択や材料の生かし方の工夫など，鑑賞の視点をもってじっくり観察し味わうことができるようにする。

（鑑賞の視点の明確化）

教師は，生徒の意見に受容的にかかわり，賞賛するようにする。作品の見方を深めるために，生徒の意見を整理し変容を促すようにかかわる。

（教師のかかわり方）

生徒一人一人が，感じ取った作品のよさや美しさなどの価値を，自分なりの見方で適切に表現したり，深めたりできるワークシートや鑑賞ノートを作成し活用させる。（ワークシート等の活用）

教師の思いを語ったり，新たな資料を提示したりして，鑑賞の充足感を味わわせるとともに，今後の鑑賞への意欲をもたせる。（今後の鑑賞への意欲化）

〔第1学年の指導事例〕

ここでは，鑑賞の初期段階にある1年生に，鑑賞における想像の楽しさを味わわせ，

鑑賞の視点として色や形などの基礎的な造形要素をおさえさせるために、作者独特の描き方で人物の豊かな表情が表されている作品の物語を想像させる指導事例を紹介する。

ア 題材名「かくされた物語をさぐる」
(第1学年, 全1時間)

イ 目標

人物の表情や様子などから物語を想像し、表現の工夫のよさや美しさを感じ取ることができる。

ウ 展開

ピカソの「海辺を走る二人の女」を見て、感想をもつ。

液晶プロジェクターにより鮮明な図版を提示し、作品の全体的な印象や雰囲気をも自分の見方や感じ方で素直にとらえさせる。

絵の中の物語を想像させ、鑑賞への意欲を喚起し、課題をとらえさせる。

「海辺を走る二人の女」に描かれている物語について自分で想像したり、グループで話し合ったりする。

二人の女性の量感や躍動感、背景などから物語を豊かに想像させ、想像の喜びを十分に味わわせ、構図や色、形の工夫との関連を考えさせる。

生徒が、自分の見方や感じ方が認められる喜びを味わえるように、受容的な雰囲気やかかわりを大切にする。

「夢」、「母と子」、「泣く女」から関心のある作品を選び、自分なりによさや美しさを感じ取る。

これまでの学習を基に、絵の中の物語や人物の台詞、作者の表現の工夫や

意図をワークシートにまとめさせ、自分の見方で、主体的により深く感じ取れるようにする。

学習を振り返り、今後の鑑賞への意欲をもつ。

ピカソの表現の幅広さや作品の制作された背景を解説したり、教師の思いを紹介したりして鑑賞の充足感を味わわせ、今後の鑑賞への意欲をもたせる。



(2) 第2・3学年における鑑賞指導

第2・3学年では、自然や美術作品、文化遺産などの鑑賞を通して、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心を広げ、第1学年で学んだことを基に、美術作品のよさや美しさを一層深く味わうことができるようにすることが大切である。

そのために、人間としての生き方や価値観が形成されるこの時期に合わせて、美術を生活や社会、歴史などの関連で見つめ、自分の生き方とのかかわりでとらえさせるなど、理解や見方を深めさせることが必要である。

指導に当たっては、次のことに留意することが大切である。

美術作品や文化遺産の鑑賞において、表現の特質や相違性、共通性、多様性などに気付かせるようにする。

(表現の相違や共通性などへの気付き)

受容的な雰囲気の中で、生徒同士で作品のよさや美しさについて発表し批評し合う機会をつくり、異なった見方や感じ方を尊重させることによって各自の見方や感じ方を深めさせる。

(批評による見方の深まり)

作者の残した言葉等を取り上げることにより、作者の表現の変容や個性的な生き方を理解し、自分の生き方とのかかわりの中で鑑賞を深めさせる。

(作者の言葉による見方の深まり)

共感をもった作家が、同じテーマで制作された異なる作家の作品同士の比較鑑賞や一人の作家の主題性の移り変わり、作品の制作年齢を調べるなど、深い鑑賞ができるように学習を工夫する。

(鑑賞を深める学習の工夫例)

〔第3学年の指導事例〕

ここでは、自分の生き方や価値観が形成されていく時期であることを踏まえ、自分の生き方とのかかわりでより深く美術を鑑賞させる指導事例を紹介する。

ア 題材名 「心の世界」

(第3学年、全1時間)

イ 目標

心の世界を表現した作品について、作者の心情や意図、創造的な表現の工夫のよさや美しさを、自分の内面と照らし合わせながら感じ取り味わうことができる。

ウ 展開

マグリットの「目に見えない世界」を見て感想をもち、超現実主義の美術史における位置や考えを知る。

実際の風景とは違う心の世界を表現

した作者の心情を想像させ、鑑賞への意欲を喚起し、課題をとらえさせる。

絵全体の感じや描いてあるものの意味を考えたり、話し合ったりする。

グループごとに、色や形、構図などの視点を例示したワークシートを基に批評するなど、主体的に活動させ、造形要素と作者の心情との関連を追究する喜びを味わえるようにする。

自分なりに作者の心情を味わう。

作者の表現の意図や願いが込められた言葉を紹介したり、これまでの話し合いを基に、作者の心情を想像させたりして深く味わえるようにする。

学習を振り返り、これからの生き方について考える。

石の配置や背景、色調などの工夫により作者の心情の変化が表れた同テーマの他の作品や、作者への教師の思いを紹介し、鑑賞の充実感を味わわせ、これからの学習への意欲やよりよい生き方への願いを高める。

〔指導事例は、鹿児島市立東谷山中学校 堤 隆行 教諭の実践を基に作成〕

鑑賞は、生徒の感性を高め、豊かな情操を養うとともに、生きる意味や生き方を考え問い直す姿勢の育成につながるものであると考える。生徒の興味・関心を大切に、鑑賞を十分楽しめるような指導を追求し、実践を積み重ねてほしい。

【参考文献】文部省 『中学校学校学習指導要領解説 美術編』平成11年
(教科教育研修課)